

# 60人がガイド模擬体験

## 外国人向け 育成プロジェクト

明治大学と新宮市など、熊野地域の自治体が連携して観光活性化に貢献できる人材を育てる「外国人向け観光ガイドの育成プロジェクト」の最終講座が17日と18日あり、参加した約60人が熊野古道4か所でガイド模擬体験に取り組んだ。

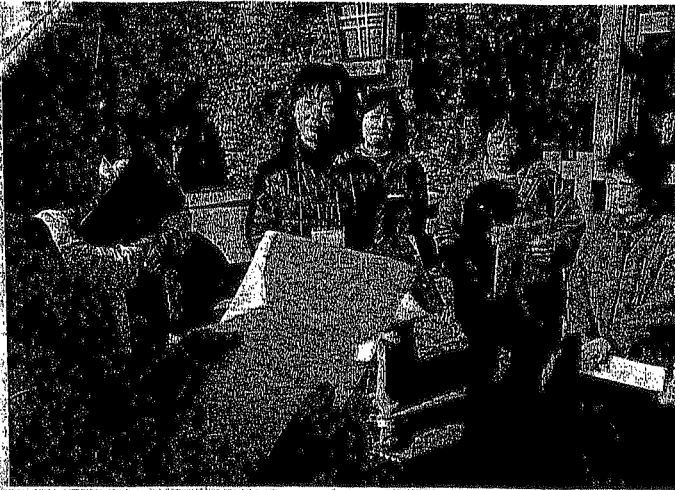
このプロジェクトは昨年6月14日から、英会話学習、異文化コミュニケーションの基礎、熊野地域の歴史と文化の講義など全20回講座で開講し、平均70〜80人が受講。2月21日に成果発表する予定になっている。

最終講座は、17日に熊野那智大社、青岸渡寺、那智の滝、熊野速玉大社、18日に花の窟(いわや)、松本峠、熊野本宮大社、大滝原(おおのほのほら)を巡り、ひとり1か所ずつ3分程度、英語ガイドする現地研修。

参加者たちは初級・初心者(1)、中級(2)、上級(3)の4班に分かれ、仲間を外国人に見立てガイドに挑戦した。初級者は「ガイドはまだまだです」と謙遜(けんそん)しつつも、「いいプログラムでした。わかりやすく、楽しかったです」と6か月の講習に大満足の様子だった。

講師の福辻京子さん(新宮市観光ガイドの会前会長)はガイド体験をした一人の良き点を挙げ、「きょうはガイドとして人の顔を見て、声を出して、臨機応変にガイドをするように話しましたが、みなさん笑顔でこたえられました。良かったです」と話していた。

明治大学の崎宣浩教授は「みなさん素晴らしい。初心者の方は全然(英会話が)できなかったのにきょう話されているの聞いて、びっくりしました。6か月の成果ですね」と感想。また、「上級者のうち数人は4月から、外国人観光ガイドの組織がある田辺で活躍されます。新宮にはまだないので設置する方向で検討。プロジェクトは来年度も継続していきます。また、前回の講座で作った外国人観光客用の観光マップとハンドブックは製版中です」と語った。



仲間の英語ガイドを聞く参加者



4班に分かれガイド模擬体験